

土と水と生きる道しるべ
武蔵野樹林

10月20日(土) 創刊!!

公益財団法人 角川文化振興財団（東京都千代田区、理事長：角川歴彦）は、この度、武蔵野地域を含む首都圏を中心に知的好奇心旺盛な人々をコアターゲットにした、文化運動の先鞭をつける新雑誌「武蔵野樹林」（むさしのじゅりん）を2018年10月20日（土）、創刊（年2回発行）する運びとなりました。

**「文化大国」でかつ「災害大国」でもある
ニッポンの未来は？ 3万年の武蔵野台地
から自然と人のリアルな営みを探求する
現代のランドスケープマガジン。**

旧石器時代、縄文時代から文化的生活が営まれていた武蔵野。
近代文学の発祥の地とされる武蔵野。
大都市に水と農産物を供給してきた武蔵野。
雑木林や丘陵、水辺に多様な生命体が生存する武蔵野。
2020年、東所沢に「角川武蔵野ミュージアム」※を開業する私たちは、この地の歴史、地形、風土、文化を学びなおすことから始めたいと思います。国木田独歩が見出した「人間と風景」の姿、300年以上持続する三富農法の「土と水」の循環、狭山丘陵の「自然と物語」の存在を手がかりにして、新旧ハイブリッドな知の実学＝新武蔵野学を発信してまいります。ご期待ください。

※「角川武蔵野ミュージアム」……角川文化振興財団が「ところざわサクラタウン」に開業する、図書館・美術館・博物館が融合した文化融合施設。（旧仮称：角川ロックミュージアム）。



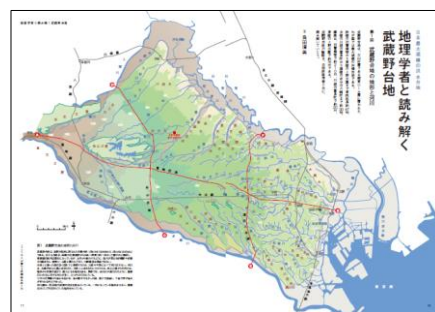
A4判/並製・無線綴/全152頁
第1号定価：本体1,500円＋税
予定発行部数：30,000部
編集長：伊達百合
発行：角川文化振興財団
発売：株式会社 KADOKAWA

創刊号 vol.1 2018 秋
(2018年10月20日発売)
第2号 (2019年4月発売予定)
電子版同時発売

主な内容

【特集1】1000万人が暮らす武蔵野台地とは

グラビア 国木田彩良の武蔵野／地理学者と読み解く武蔵野台地／
武蔵野アースダイバー 中沢新一／水の視点から読む武蔵野の原風景 陣内秀信／
エンシオスの野望 松岡正剛／三富農業／（連載）はじまりの武蔵野学 赤坂憲雄



【特集2】知のランドスケープを歩く



【特集3】水と出会う



連載

間に合う物語 アーサー・ビナード／古層探偵 大澤信亮／
ニッポン終末風土論 宮台真司／能のみかた 村上湛 ほか

主な執筆陣 紹介

- 中沢新一** 1950年山梨県生まれ。思想家、人類学者。明治大学野生の科学研究所所長。東京大学大学院人文科学研究科博士課程満期退学。著書に、『チベットのモーツァルト』『アースダイバー 東京の聖地』他。
- 松岡正剛** 編集工学者、編集工学研究所所長、イシス編集学校校長。ブックナビサイト「千夜千冊」連載中。日本文化研究の第一人者でもある。
- 赤坂憲雄** 1953年、東京都生まれ。民俗学者。東京大学文学部卒。学習院大学教授。2007年『岡本太郎の見た日本』(岩波書店)でドゥマゴ文学賞受賞。最新刊に『武蔵野をよむ』。

- 永田和宏** 1947年滋賀県生まれ。細胞生物学者、歌人。京大名誉教授、京都産業大学タンパク質動態研究所所長。『近代秀歌』『知の体力』、歌集『午後の庭』他。
- 山極寿一** 1952年東京都生まれ。人類学者、霊長類学者。京都大学総長。『「サル化」する人間社会』他。
- 内田樹** 1950年生まれ。専門はフランス現代思想。ブログ「内田樹の研究室」を拠点に幅広いテーマを縦横無尽に論じる。『私家版・ユダヤ文化論』(第6回小林秀雄賞)他。
- 小池真理子** 作家。長野県軽井沢に在住。1996年『恋』で直木賞受賞。近著に『モンローが死んだ日』『死の島』他。

お問い合わせは、角川文化振興財団 編集担当 住谷(すみや)まで
電話 03-5211-5154(10:00~18:00) / FAX 03-5211-5155
Email sumiya-h@kadokawa-zaidan.or.jp